

# 1-5. 赤磐市のこれまでの取り組み

## 赤磐市農業関連施策

### 3. 農産物のブランド化・高付加価値化 ～ 地域商社 ～

- 地域商社による地域資源の販路開拓を目指す取組に着手し、平成29年5月、市内の民間事業者が設立する地域商社「株式会社AKAIiWA」が、熊山にある英国庭園にて「農Café」をオープン。
- 現在、市内農業生産者と連携し、水稲作の閑散期に生産できる新品種の導入、赤磐市産農産物や加工品を利用、組み合わせた商品開発・販売（カタログギフトやふるさと納税商品）、熊山英国庭園での市民向けの各種講座やイベントの企画などに取り組む。



農Café風景（熊山英国庭園内）



岡山県の地元タウン情報誌上での広告



AKAIiWA農カフェマルシェ  
（H30年11月4日開催）

### 熊山英国庭園で趣味を楽しむ ラブフルamieカルチャー12月



12.9(日)&12.16(土) 10:30～12:30, 13:30～15:30 定額1800円



カルチャー講座の案内



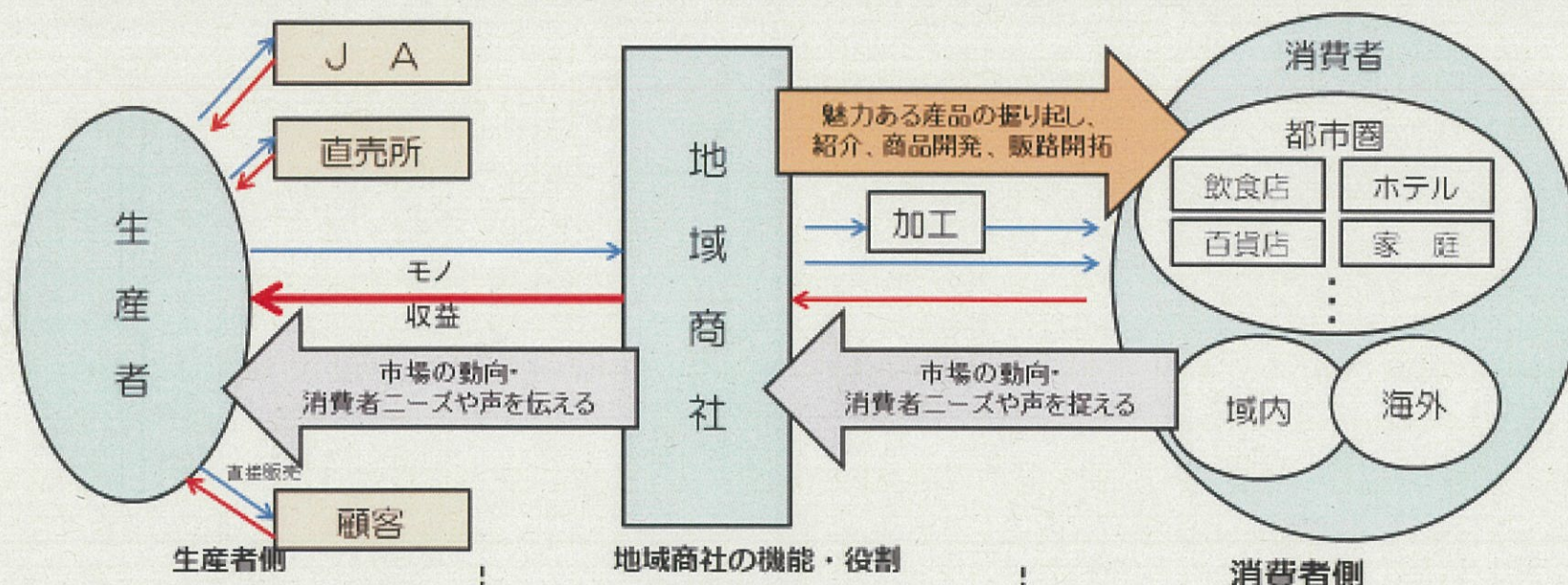


# 1-5. 赤磐市のこれまでの取り組み 赤磐市農業関連施策

高付加価値化  
ブランド化

6次産業化  
施設園芸

## 地域商社のイメージ（基本機能・役割）



### 【現状】

- ・努力、工夫し、魅力や価値ある農産物を生産しても市場を通せば一律価格
- ・各生産者が直接、都市圏に販路を確保したり、消費者等に営業販売は困難
- ・受注発送、決裁、苦情対応が困難

### 【メリット】

- ・売り先の選択肢が増加
- ・市場の動向、消費者のニーズや声を反映した売れる商品の生産が可能  
(従来の生産したモノを売るのではなく、売れるモノを生産する発想)

- ①魅力ある地域の農産物や商品の発掘
- ②①の素材を使った商品開発
- ③①や②の都市圏等の消費者への紹介
- ④販路開拓を行い、ニーズのあるところに販売し、生産者に還元（商品価値や付加価値を認め、高く買うところ）
- ⑤小、中ロットの需要にも対応可能
- ⑥卸、受注発送、決済機能
- ⑦市場の動向、消費者のニーズや声を生産者に伝える（消費者目線重視）

- ・高くても、美味しいもの、旬のもの、名産品等を求める「本物志向」
- ・市場の変化やニーズが多様化
- ・飲食店等、魅力や価値ある農産物や商品を扱いたい、しかし、情報がない（地方の魅力のある商品を知らない）
- ・生産者と個別に直接取引するのは非効率（購入窓口があればありがたい）

- ・市場ニーズを捉え、生産者と消費者、両者を結ぶ「商社」として機能を果たす
- ・魅力ある地域の農産物や商品を都市圏（百貨店、飲食店）等の新たな市場に発信、販売の窓口となり、1円でも高く売り、収益の一部を生産者に還元する役割を担う

13



# 1-5. 赤磐市のこれまでの取り組み

## 赤磐市農業関連施策

### 3. 農産物のブランド化・高付加価値化 ～ 海外輸出に向けて ～

- 赤磐産の白桃やぶどう、日本酒などの農産物や特産品の新たな市場開拓や販路拡大を図るため、香港で開催されている「香港FOOD EXPO」に出展。赤磐市の知名度の定着化と赤磐ブランドの信頼性を高めるとともに、国内のみならず、海外へ進出を希望する市内の事業者や団体等を支援。
- 併せて、農産物の鮮度保持、輸送技術の確立、農産物の海外での評価や動向を把握するため、岡山大学、吉備国際大学等とも連携し、白桃やぶどうの低温での輸送実験、香港での市場状況調査等にも参画。
- こうした取り組みの結果に関しては、市内の生産者や岡山県、JA等の農業関係者を参集し、大学や高校、海外での農産物を取り巻く動向など情報提供する意見交換会を開催（H30年1月18日開催）。

#### ※香港FOOD EXPO 2018

- ・アジア最大級の総合食品見本市。8月16～18日に開催。
- ・日本貿易振興機構（ジェトロ）が「日本パビリオン」を設置。
- ・出展企業は米、米加工品、青果物、畜産品、水産品等126団体が出展。
- ・赤磐市は市内事業者の出展（海外進出に向けた取り組み）を支援。



岡山大学及び吉備国際大学の輸送実験  
（荷物到着、変色、糖度等調査、アンケート調査）

#### ※もも・ぶどうの輸出・貯蔵技術に関する意見交換会

- ・日時：H31年1月18日
- ・場所：岡山県農業大学校 研修交流ホール
- ・主催：赤磐市産業振興部農林課  
青果物輸出促進コンソーシアム  
（岡山大学、岡山県農林水産総合センター）共催
- ・テーマ：もも・ぶどうの輸出・貯蔵試験の取り組みについて
- ・参集範囲：市内生産者、市内農産物直売所、岡山県農業大学校  
岡山県立瀬戸高校、岡山県立瀬戸南高校、岡山県、  
JA岡山東 等



意見交換会当日の風景（H31年1月18日）  
（岡山大学、吉備国際大学の研究者からの報告）



# 1-5. 赤磐市のこれまでの取り組み

## 赤磐市農業関連施策

### 3. 農産物のブランド化・高付加価値化 ～インバウンド対応～

- 近年、岡山空港には、香港、台北、ソウル、上海線が就航。関西空港、新幹線ルートのみならず、岡山空港を利用し、岡山を訪れる訪日外国人観光客が増加。（香港便は週2便、その他は毎日就航）
- さらに、レンタカーを利用する外国人観光客が増加。市内各地でも白桃やぶどうの収穫体験等を楽しむ国内外の観光客、旅行者も増加。
- 今後、本市でも白桃やぶどうなどの特産品を活用した外国人観光客誘致に向けたPR強化と外国人観光客の受入れ環境整備など、外国人観光客等を対象にした新たな販売手法や市内観光ルートの開発等が必要。
- ⇒今後、本市のみならず、吉井川流域DMO（瀬戸内市、和気町との広域観光連携事業）等との連携を模索。

香港・台湾の旅行業界関係者招聘



(山陽新聞H28年5月)

鄭さんのブログ

<http://blog.sina.com.tw/ber925/>

王さんのブログ

<http://smallcatty35.pixnet.net/blog>

訪日外国人観光客向けの沖縄での白桃やぶどうのPR



白桃（H30年7月10～13日）



ぶどう（H30年9月18～21日）

沖縄の旅行会社や航空会社と連携した取り組み。沖縄、那覇空港は外国人観光客（アジア系）も多いこと、また、岡山～沖縄便を利用した農産物の輸出もメリットあり。



(山陽新聞H29年9月)



# 1-5. 赤磐市のこれまでの取り組み 赤磐市農業関連施策

高付加価値化  
ブランド化

6次産業化  
施設園芸

## 3. 農産物のブランド化・高付加価値化 ～吉井川流域広域観光連携事業（DMO）～

- 訪日外国人観光客（インバウンド）の増加、赤磐市の農産物の付加価値や魅力を活かした農業、商工観光や地域の活性化を期待する半面、赤磐市内には宿泊施設がない、白桃やぶどうの食べ頃時期は限定されているなどの弱点もあり。
- 近隣の瀬戸内市、和気町と連携し、観光を基軸に市町の枠を超えた地域振興の取り組み「吉井川流域広域観光連携事業（DMO）」に着手し、H30年5月30日、「一般社団法人吉井川流域DMO」を設立。一社を中心に3市町が連携し、それぞれの地域資源や観光資源を補完しながら、体験型・着地型観光の担い手組織づくりを目指す。



一般社団法人吉井川流域DMO  
第1回理事会、有識者会議（H30年5月30日）



訪日外国人向け - 英語・繁体字・簡体字 - 「岡山空港観光パンフレット」製作

※※世界最大級 ツーリズムEXPO 2017（9/21～24 東京）への参加※※



世界130か国、1,310の出展  
来場者数4日間で191,500人



【体験型イベント】  
・赤磐市（模擬たて！桃狩り）  
・瀬戸内市（甲冑試着）  
・和気町（ミニこいのぼり製作）





# 1-5. 赤磐市のこれまでの取り組み 赤磐市農業関連施策

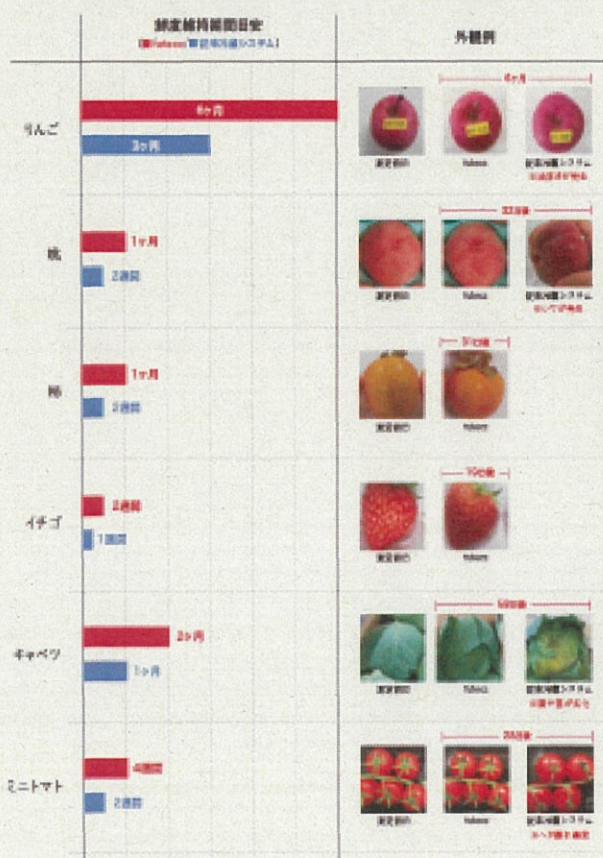
高付加価値化  
ブランド化

6次産業化  
施設園芸

## 4. 地産地消の推進 ～ 農産物の鮮度維持と受発注の効率化 ～

- 収穫時期が集中する特産品の農産物、地場食材の流通等に関して、利用を平準化又は長期化し、販売機会の最適化又は通年供給体制の実現を図るため、温度変動が少ない高精度のコンテナ型「鮮度維持装置」を導入。
- 現在、赤磐市内の生産者部会、農産物直売所等が農産物（桃、ぶどう、栗、キウイ等）を保管するなど、試験的に活用を行っている。

※鮮度維持装置の導入による効果※



コンテナ型鮮度維持装置と庫内風景

- ・旧可賀小校庭内に設置
- ・長さ12.2m、幅2.4m、高さ2.9m、内空66.7m<sup>3</sup>



若手ぶどう生産者による実証調査  
(H29年12月13日)



現在の庫内風景  
(H30年11月22日)



# 1-5. 赤磐市のこれまでの取り組み

## 赤磐市農業関連施策

### 5. 夢のある「あかいわ」の農業を目指して ～新規就農者の活躍と赤磐ブランドの確立を目指して～

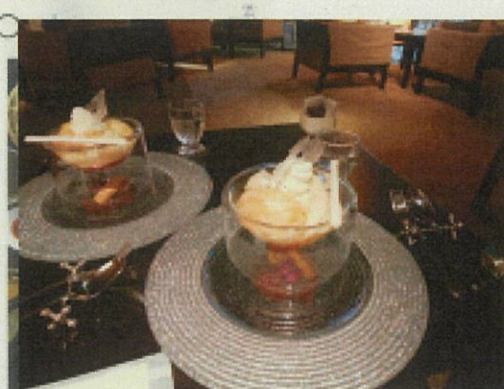
- 赤磐市の未来の農業を支える「新規就農者」は、農業に関する各自の知識や技術の習得のみならず、本市の農業振興に向けて鋭意努力し、活躍中。その知識と経験を新たな市内で就農を目指す新規就農希望者へ・・・。
- ホテル、フルーツ専門店、飲食店等において、赤磐市の農産物を使ってもらうことにより、幅広い発信も期待。



高品質な農産物の  
生産に取り組む  
若手生産者



赤磐産の白桃やぶどうを使った企画  
(大阪：ANAクラウンホテル大阪)



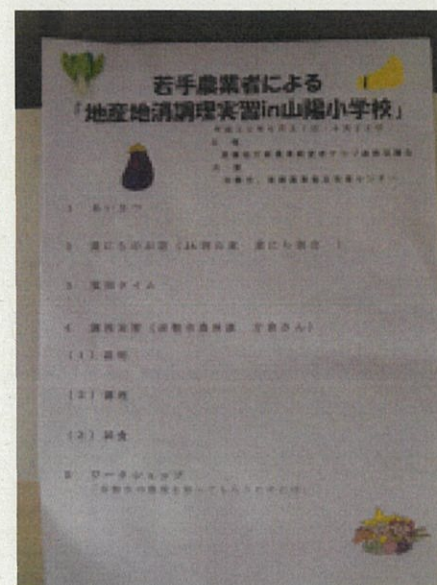
赤磐産の白桃を使った  
白桃のカッティング教室  
(東京：新宿高野フルーツパーラー) 18



○赤磐市の農業を守り、未来へ継承するためには、新規就農者の確保のみならず、多くの市民の農業への理解促進が不可欠。特に、次世代を担う子供達に本市の農業に興味と関心も持ってもらうことが必要不可欠。

○「地産地消」や「食育」という活動のみならず、直接、子供達が赤磐の農業に触れ、親しむことが重要と認識。

○若手生産者が中心となり、学校やPTAの理解と協力の下、市内小学校で、白桃やぶどうの生産、収穫体験、地元食材を使った調理実習、ワークショップの開催など、「農業」と「教育」を組み合わせた活動も実施。

調理実習メニュー  
(黄二ラ)

若手生産者による「白桃」の収穫指導（山陽小）



# 1-5. 赤磐市のこれまでの取り組み

## 赤磐市農業関連施策

### 5. 夢のある「あかいわ」の農業を目指して ～ 次世代への継承に向けた新たな取り組み～

- 本市には、本市発祥の白桃のみならず、ぶどう、雄町米以外の特産品として、全国的にも珍しい西洋なしのパス・クラサン（生産農家3軒）、エンダイブや黄ニラなどの「ローカルフルーツ、野菜」が存在。
- こうした農産物を「赤磐市の貴重な資源・財産」として、次世代に、どのように継承していくかが課題。
- ⇒まずは、多くの方々に知ってもらい、広めていくことが重要。また、農業を志す、若い方々が農業に関心を持ってもらう取り組みも重要と認識し、瀬戸南高等学校や民間企業の協力も得て各種活動を実践中。



生産者から、パス・クラサンの特徴や栽培方法について学ぶグループ



本市の鮮度維持装置を利用し、商品開発（デザート）を目指すグループ



航空会社の客室乗務員から接客マナーや販売の仕方を学ぶグループ 20

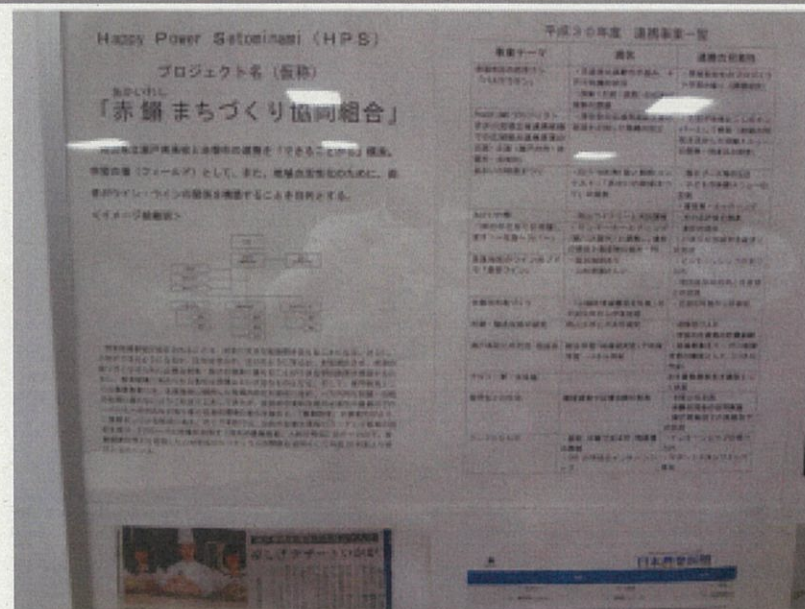
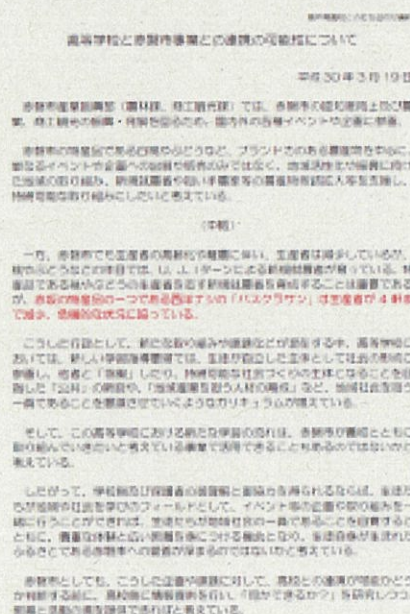


## 1-5. 赤磐市のこれまでの取り組み

### 赤磐市農業関連施策

## 赤鯛（あかいわし）の夢プロジェクト ～パス・クラサンを事例に～

- 西洋なしの「パス・クラサン」、赤磐市は全国90%以上を生産し、名実ともに「全国一」。
- 瀬戸南高等学校の理解と協力の下、赤磐市の地域課題（農業）に関して、いろいろな取り組みがスタート。その1つとして、男子生徒4名のパスクラサンの研究活動がスタート。
- 赤磐市の地産地消の推進に取り組む「地域おこし協力隊」も加工品の生産に向けて協力。



今年度の「パス・クラさん」の目標:

- ①全国の西洋なし関係者が集まるフォーラムに参加し、仲間入りする。  
②そして、諸先輩方に知ってもらい、全国の友達を作る！





## 1-5. 赤磐市のこれまでの取り組み

### 赤磐市農業関連施策

#### 第19回西洋なしフォーラムへの参加までの経緯

①赤磐市には、公立の高等学校がない。しかし、旧赤磐郡内には、2つの公立高等学校（岡山市東区瀬戸町）があり、その一つが「岡山県立瀬戸南高等学校」。



②赤磐市は、白桃の発祥（小山益太翁、大久保重五郎翁）の地であり、岡山県内でも有名な白桃やぶどうの産地。一方、農家の高齢化や離農の増加により、新規就農者の確保、農業振興が必要。

③瀬戸南高等学校では、おかやま創生高校パワーアップ事業を展開しており、「グローバル市場を目指す『攻めの農業経営』人材の育成」をテーマに「地域共育」のあり方を模索。

④赤磐市が、農業や商工観光業に関する取り組みについて、何か一緒にできないかと相談。（「赤鯛プロジェクト」の提示）

⇒いろいろと一緒にできないか、相談してみよう！！からスタート。



# 1-5. 赤磐市のこれまでの取り組み

## 赤磐市農業関連施策

### 5. 夢のある「あかいわ」の農業を目指して ～ 次世代への継承に向けた新たな取り組み～

- 11月10日、東京で開催された「第19回西洋なしフォーラム（主催：西洋なしフォーラム実行委員会）」において、パス・クラサンに関する赤磐市の取り組みと瀬戸南高等学校の調査研究について概要を報告。
- 全国の有名青果店関係者、他県の西洋なし生産者、行政関係者等、当日の参加者のパス・クラサンや取り組みに関する関心や興味は高く、「昔、取り扱っていたことがある」、「味は格別」、「非常に懐かしい」などの意見と、現在、赤磐市内に3軒しか生産者がいないという事実に対して、「頑張れ！」という温かい多くの声援。現在、予冷と追熟の調査を実施中。



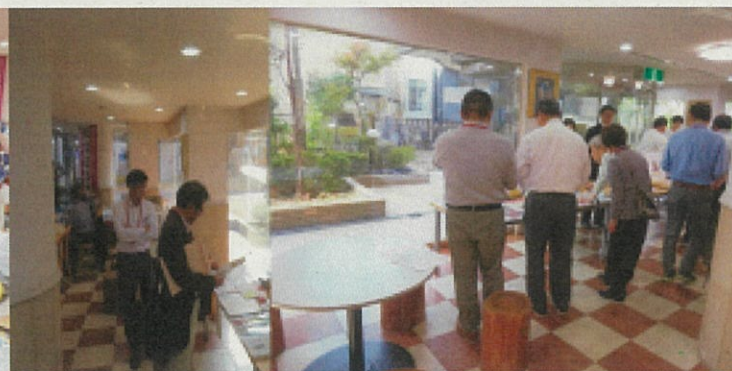
出展された全国の西洋なし



瀬戸南高校及び赤磐市のブース



赤磐市の展示ブースに集まる参加者  
パス・クラサンに関する貴重な情報・意見を交換



農経新聞（H30.11.19）



# 1-5. 赤磐市のこれまでの取り組み 取り組み結果

- 強い農業の達成に向けた現行施策について、優先度、取り組み状況、及び課題とその要因に関するヒアリングを実施したところ、以下の通りとなった。

〈赤磐市強い農業の施策達成状況〉

重点項目	施策の内容	取り組み状況	課題	理由、背景	優先度
ブランド化	食味分析、地理的表示の実施、地域農産物の品質向上	取り組みなし	生産者の関心が低い	生産者の関心が低い	低
	園地の有効活用・拡大による、安定的な出荷体制と高品質の維持	是里地域へのICT技術の導入	市内全域への展開の遅滞	市内、 <b>生産組合の技術レベルの統一化</b> が図られていない	中
	海外展開を視野に入れた市場開拓	取り組みなし	輸出先とのマッチングにおける困難さ	昨年度まで香港において海外輸出関連事業を実施したものの、 <b>販路拡大の可能性は低いとの判断あり</b>	低
6次産業	地域における加工・流通・販売の一体的な展開	民間事業者による実施	生産規模の拡大	<b>個人農家が生産を行っているため、農業との両立が困難</b>	低
	スマート農業の導入促進	岡山県の管轄下にて市内の農業法人が実施	他の品目への普及停滞	労働力確保のため、果樹生産におけるスマート技術の導入が求められている	高
	農業、畜産、商業等、他領域連携の促進	水稻と畜産のみ連携あり	連携先の少なさ	生産者が必要性を感じていない	低
経営感覚の育成	大学生、高校生に対する奨学金や就活支援	岡山県立農業大学校入学者に奨学金を給付	特になし	奨学金設定の必要性	低
	UIターンに対する農地、施設、資金、技術支援	赤磐市就農支援センターを基軸とした就農者サポートを実施	特になし	就農者に対する <b>ワンストップサービス</b> への要望	高
	長期経営支援、指導				
	大規模経営人材の育成				

出所：ヒアリング結果を基にEY 作成



## 2-1. 赤磐市の目指すべき将来像及び目標



## 2-1. 赤磐市の目指すべき将来像及び目標 課題への対応策と目指すべき将来像

### 〈主な課題〉

農業従事者の減少

農業従事者の高齢化

後継者不足

大規模経営体の少なさ

農地連たん化の不足

農地継承の難しさ

桃の販売量減少

農産物の販売額の減少

周年収益の難しさ

高度技術継承の難しさ

農業生産力の低下

農機更新の金銭的負担

障害者雇用の社会的要請

耕作放棄地の増加

鳥獣被害の拡大

### 〈求められる施策例〉

#### 就農・経営支援

- 高度農業技術の継承と一般化
- 供給体制の強化と安定化
- 親方就農制度の運用や農業経営塾の運用
- 新規就農者への積極的な支援
- 農閑期の収益確保に向けた検討
- 一般企業の農業参入促進
- 経営感覚を持った地域農業の担い手支援
- 就農体験圃場や新技術実証圃場等の運営
- 水稻栽培の大型農家への委託促進

#### 高付加価値化・ブランド化の推進

- 農産物の高付加価値化、地域としてのブランド力・認知度向上
- ぶどう等、需要の高い輸出品目の品質維持・向上
- 収穫体験ツアー等を通じた米の付加価値向上
- 産地維持のための園地台帳や園地改植計画の作成
- 野菜生産拡大に向けた「農地マッチング体制」の確立
- 水田における高収益作物の栽培（果樹や施設園芸作物等）
- 農産物の販売体制見直し（ロットの確保）

#### 6次産業化・次世代農業の推進

- 生産管理ICTの開発やスマート農業の促進
- 農福連携の強化
- 周年栽培を可能とする施設園芸の導入と新たな品栽培の強化
- 6次産業として加工品の商品化や流通に向けた取り組みを促進
- 赤磐市就農等支援センターを軸とした次世代農業の取り組み強化

#### 農地・農村環境の保全

- 荒廃農地の改善
- 鳥獣害対策の強化
- 灌・排水設備、区画整備事業、ハウス撤去等の基盤整備
- リタイア世代等による遊休農地の利活用支援
- 「借り手・出し手総合調整支援制度」等、農地流動と連たん化の促進

### 〈2030年の将来像イメージ〉

栽培技術学習ツールを開発し、就農等支援センターにおいて展開するとともに、農業経営基盤の強化を進めることで、新規就農者を80名確保を目指す。農業労働人口が維持されている。

高価格帯のぶどうや桃の出荷期間延伸によって売上高が10%増加しており、品質を示すデータ指標と共に赤磐市産ブランドが全国に推進されている。また、農産物の特性を活かした機能性商品や加工食品の展開が周年収益を生みだしているうえ、かつての耕作放棄地から高い収益が生み出されている。

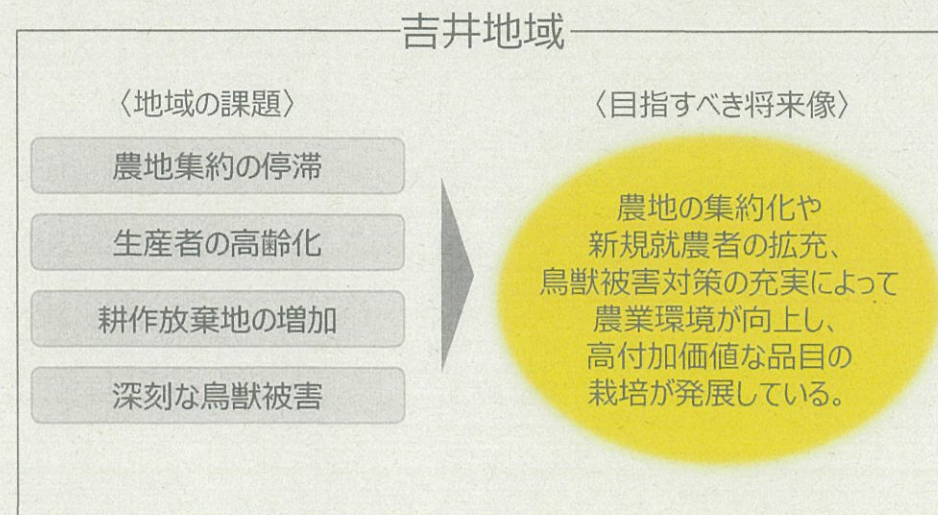
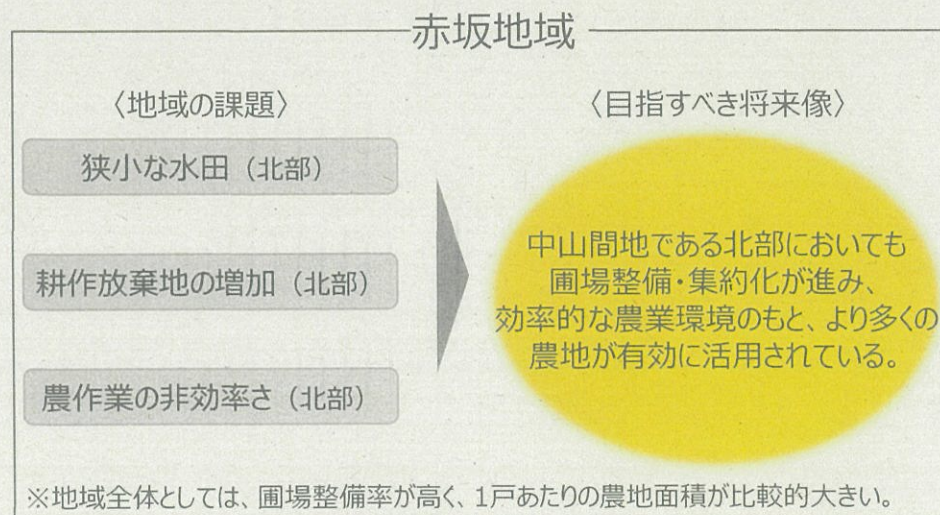
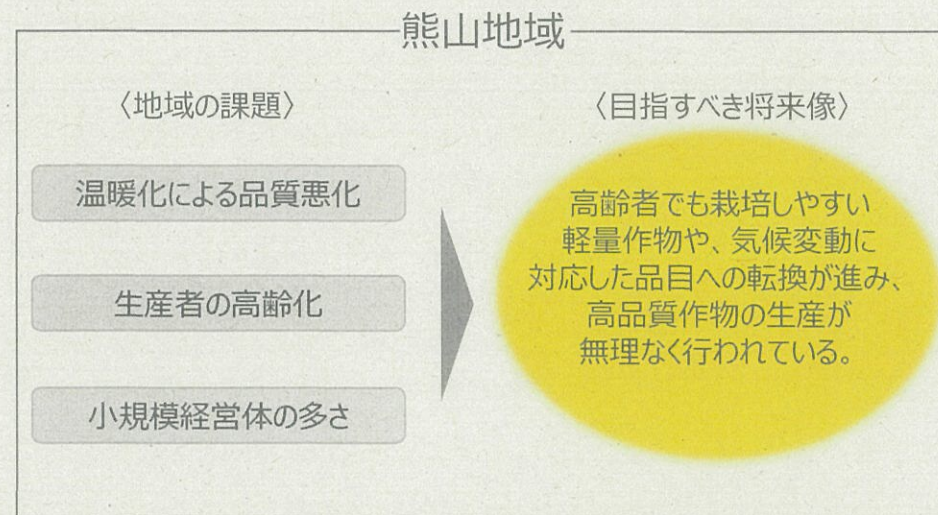
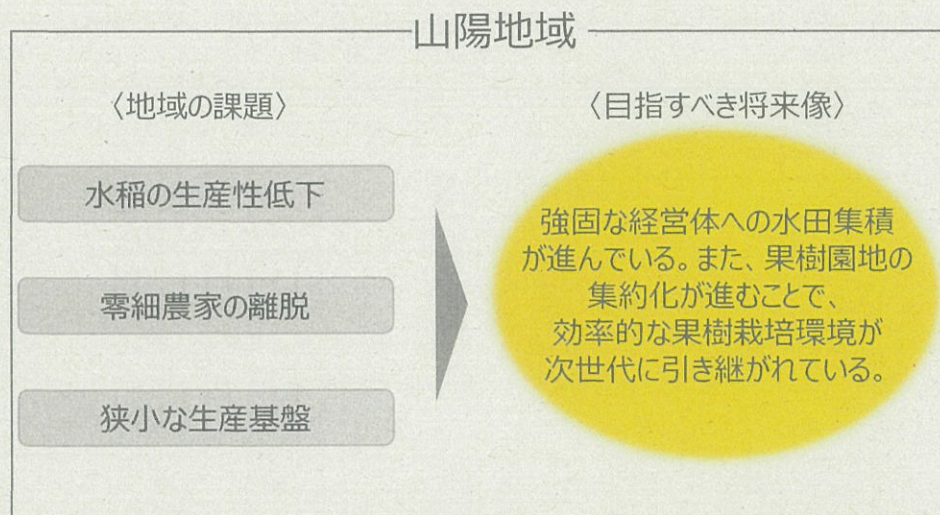
水稻や果樹の生産にかかる平均作業時間及びコストが10%削減され、生産の効率化が進んでいる。施設園芸により周年栽培が促進しているうえ、農福連携によって多様な人々が農業の現場で活躍している。

鳥獣被害地域が半減しているとともに、排水設備等の基盤整備が進み農業環境が向上している。また、農地の集約・連たん化により大規模化が進み、効率的な経営の下で農地が有効に活用されている。



## 2-1. 赤磐市の目指すべき将来像及び目標 各地域における課題と将来像

- ▶ 赤磐市全体の施策に加え、各地域が抱える課題に鑑みた個別的な対応の実施も重要となる。





## 2-1. 赤磐市の目指すべき将来像及び目標

### JA晴れの国岡山との連携

- ▶ 岡山県内の農業振興を目指すJAとの連携を強化し、赤磐市における農業者の所得増大と農業生産の拡大を目指すしていく。

〈「JA晴れの国岡山の農業振興戦略」〉

農業者の所得増大	農業生産の拡大
農産物の有利販売による農業収入の増大と生産コストの抑制	マーケットインに基づく需要に応じた生産拡大と、プロダクトアウトに基づく地域ブランドの向上

行政等関係機関との連携を前提とした重点取り組み

<p><b>1 労働力確保に向けた支援</b> <span>就農・経営支援</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 行政機関等と連携し、<u>農作業の体系に合わせた労働力支援の仕組みづくり</u>を検討していく。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職業紹介事業や農福連携等を通じたマッチング支援</li> <li>・ 農作業支援隊の結成</li> <li>・ JA出資型農業法人による農作業受託支援等</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>3 農業環境の整備</b> <span>環境保全</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <u>耕作放棄地の解消</u>に向け、牛の放牧等、各種取り組みを行っていく。</li> <li>◆ 狩猟人材の育成など<u>鳥獣被害の防止</u>に積極的に取り組む。</li> <li>◆ <u>捕獲獣の利活用を促進</u>する。</li> </ul>
<p><b>2 新規就農者の育成</b> <span>就農・経営支援</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 行政機関等と連携し、<u>新規就農者の確保に向けた環境整備</u>を実施していく。</li> <li>◆ 農業経営資産を確実に引き継いでいくため、<u>農業経営承継</u>に取り組む。</li> </ul>	<p><b>4 各品目の栽培強化</b> <span>高付加価値化 ブランド化</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <u>水田のフル活用</u>に向け、他品目や地域振興作物、高収益な園芸作物等の作付けを推進する。</li> <li>◆ 販売高が大きい品目や評価が高い品目を野菜及び果樹における「<u>広域重点振興品目</u>」として選定し、重点的に<u>産地振興、生産拡大</u>に取り組む。</li> <li>◆ 広域重点振興品目を軸に、<u>栽培技術の共有や、共同選果による規格統一化</u>によって品質の高位平準化を図る。</li> </ul>



## 2-1. 赤磐市の目指すべき将来像及び目標

### JA晴れの国岡山との連携－主要作目の生産振興方針－

- ▶ 岡山県内の農業振興を目指すJAとの連携を強化し、赤磐市における主要作目の生産拡大と農業者の収益の向上を目指していく。

#### JA岡山県統括本部における主要作目の生産振興方針

##### ぶどう

- ◆ ピオーネを中心としつつ、需要の高いシャインマスカットの産地拡大を進める。
- ◆ 気候変動に対応した生産安定対策を検討する。
- ◆ 品質とブランド力の向上を促進する。
- ◆ 早期成園化により出荷量を増大させることで新規就農者の参入を促進するとともに、品種転換リスクを低減させる。
- ◆ シャインマスカットの産地間競争激化に対し、プレミアム規格の設定や端境期での出荷等による差別化を図る。

広域重点振興品目 ピオーネ、シャインマスカット、オーロラブラック

##### 野菜

- ◆ 安定生産技術を促進する。
- ◆ 施設等の活用により、周年出荷体制を構築する。
- ◆ 軽労働で高収益な作目の振興を図る。
- ◆ 品質の向上を促進する。

広域重点振興品目 キュウリ、黄ニラ、ナス、スナックエンドウ、白ネギ、小豆

##### 水稻

- ◆ 推奨品種に集約し、売れる米作りを促進する。
- ◆ 循環環境保全事業に取り組み、生産拡大を図る。
- ◆ 酒造会社との連携により、実需者ニーズに合わせた計画的な酒造好適米の生産を行う。
- ◆ 生産コストの低減と環境にやさしい農業の運営を図る。
- ◆ 食味分析を実施し、ブランド化の向上を促進する。

##### 桃

広域重点振興品目

- ◆ 共販体制を強化し産地づくりを促進する。
- ◆ 長期連続出荷体制を構築する。
- ◆ 品質の向上を促進する。
- ◆ 安定的な生産により産地供給力を強化する。



## 2-2. 既に着手されている取り組み



## 2-2. 既に着手されている取り組み 就農等支援センターの設立

- ▶ 赤磐市を取り巻く課題に対応するべく、赤磐市就農等支援センターを中心として、農業人材の育成や農業経営強化に向けた取り組み、また次世代農業の推進等が企図されている。

「強い農業の確立」に向けて求められる対応

農業発展、農地の維持保全

地域経済の活性化

財政負担の軽減

赤磐市の農産物  
における優位性の確立

耕作放棄地等の保全、集約  
と次世代農業の推進

労働力不足と障害者雇用  
の社会的な要請への対応

各種課題に取り組むため、赤磐市就農等支援センターを整備

整備基本方針

### 農業の担い手確保・育成を可能とする拠点づくり

- 1 新規就農希望者の確保対策の検討
- 2 若手、担い手農家の育成
- 3 新たな労働力確保の検討（人材バンク等）

就農・経営支援

### 地域農業の振興支援による「強い農業」の仕組みづくり

- 1 農産物の高付加価値化、地域ブランド化への取り組み
- 2 6次産業化への取り組み
- 3 財政負担の軽減となる組織づくり
- 4 次世代農業拠点としての拠点づくり

高付加価値化  
ブランド化

6次産業化  
施設園芸

農地農村  
環境の保全



## 2-2. 既に着手されている取り組み 農業技術の維持・発展に向けた取り組み

就農・経営支援

6次産業化  
施設園芸

- ▶ 赤磐市では、農業技術の維持、発展を目指す中、従来の土耕技術継承に加えスマート農業等の次世代農業の推進が図られている。

### 土耕技術の継承（三徳園）

- ◆ 農業研修農場を併設する三徳園では、定期的に就農研修を実施。
- ◆ 研修農場では、野菜、桃、ぶどうの畑が整備されている。

#### 〈就農研修の募集〉

【三徳園】長期就農研修生（野菜）を募集しています。

岡山県立青少年農林文化センター三徳園では、本県に野菜で独立・自営就農することを目指す方で、地域で行っている農業実務研修の対象とならない方を対象とした長期就農研修の研修生を募集しています。

この研修は、技術研修だけでなく、就農予定地就農者として就農するまでを総合的に支援する万円の研修費を支給します。

なお、研修生の決定には審査がありますが、その就農研修の御案内等、本県へ就農できるよう

#### 研修の内容等

- 1 対象者 野菜で独立自営就農を目指す
- 2 受入時期 平成31年4月1日（月）から
- 3 研修科目 三徳園で栽培している野菜各（いちご、なす、トマト、キ

#### 【三徳園】1DAY農業体験（いちご）&就農相談（2月開催分）参加者を募集しています。

岡山県で農業を始めたいけど、農業経験がないのでまずは農業体験をしてみたい、就農までにどのような準備をしたらいいのかわからない、どのような支援策があるのか相談したいとお考えの方はぜひご参加ください。

なお、農業体験では、専門の指導員による栽培管理の説明を行った後、実際に作業していただきますので、作業ができる服装でお越しください。



三徳園研修交流館

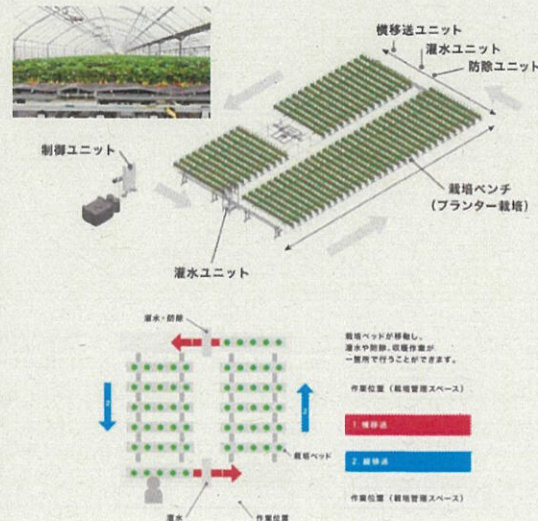


農業体験の様子（イメージ）

### 次世代農業の推進（就農等支援センター）

- ◆ 「強い農業の確立」実現を目指す就農等支援センターでは、スマート農業等の次世代農業推進を企画。
- ◆ 自動化されたハウス栽培システムや、LEDを導入した完全人工光型植物工場などの導入が検討されている。

#### 〈オートメーションハウス栽培システム〉



#### 〈LED植物工場〉





A large yellow trapezoidal shape is positioned on the right side of the page, pointing towards the left. It contains the text for the section header.

### 3-1. 就農等支援センターを中心とした次世代 農業の推進



# 3-1. 就農等支援センターを中心とした次世代農業の推進

## 農業振興における就農等支援センターの位置づけ

- ▶ 農業振興には、伝統的な技術を活かしながら環境の変化に応じた次世代農業の普及を図ることが重要であるため、就農等支援センターを軸として、新たな農業技術の発展や技術継承の促進等の取り組みを強化する。

〈強い農業の確立に向けた農業振興に必要な方向性〉

### 伝統的な農業技術の継承及び高度化と次世代農業の普及促進





# 3-1. 就農等支援センターを中心とした次世代農業の推進 既存施設との連携

- 市内の既存施設と連携することで、伝統的な農業技術と次世代農業技術を融合した赤磐市ならではの農業モデルの形成と担い手育成の拡充を目指す。

〈就農等支援センターと既存施設との関係性〉

伝統的な農業技術の継承・発展と  
新規就農者の育成・拡充

次世代農業技術の普及・発展

三徳園（既存）



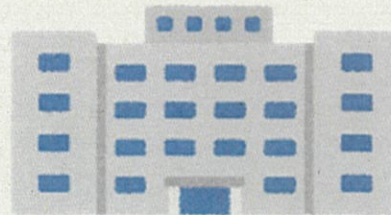
農業研修や  
体験の実施

新規就農者  
の育成

〈主な機能〉

- ・ 農の文化形成
- ・ 経営分析技術の発
- ・ 後継者の育成
- ・ 体験フィールドの展開
- ・ 農業体験研修の実施
- ・ 社会人就農研修の実施
- ・ 新規就農者研修の実施
- ・ 地域帰農塾の開催
- ・ ホリデー就農ゼミの開催

就農等支援センター



〈主な機能〉

- ・ 経営感覚を持った農業経営者の育成
- ・ 農産物の高付加価値・ブランド化の推進
- ・ 六次産業・次世代農業の推進
- ・ 担い手への農地集積と生産基盤の整備
- ・ 多面的機能の発揮
- ・ 農産物の鳥獣害被害対策

県農林水産総合センター（既存）



新技術等の農家  
への普及指導

〈主な機能〉

- ・ 新作目の試験
- ・ 生産要素の試験
- ・ 経営分析技術の発展
- ・ 後継者の育成
- ・ スマート農機の研究
- ・ 新農業技術の開発

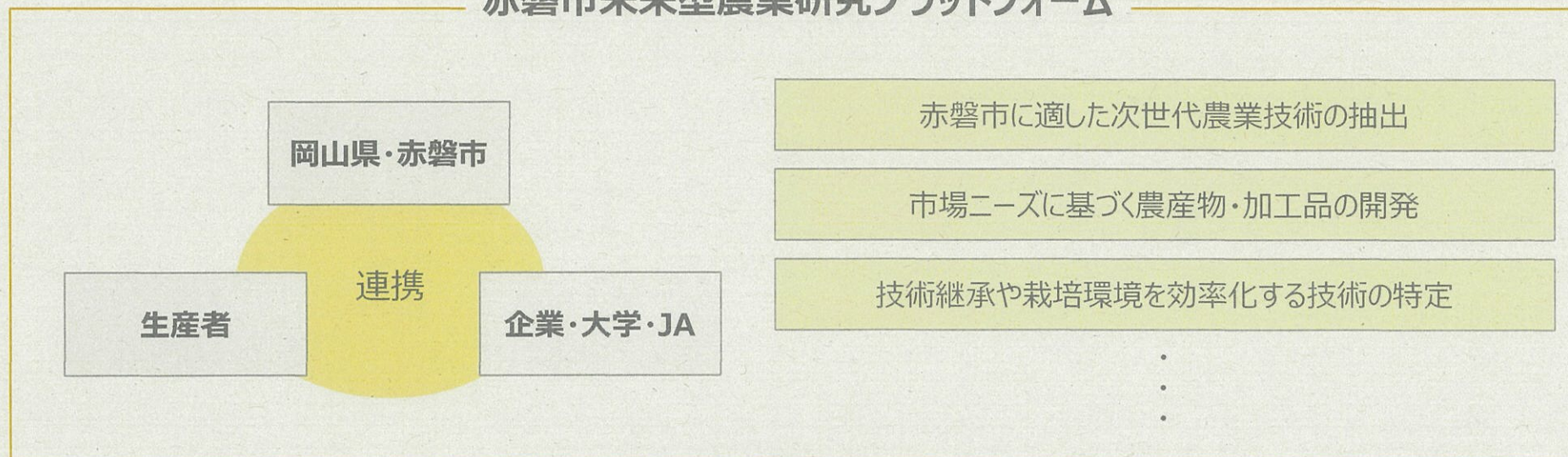


## 3-1. 就農等支援センターを中心とした次世代農業の推進

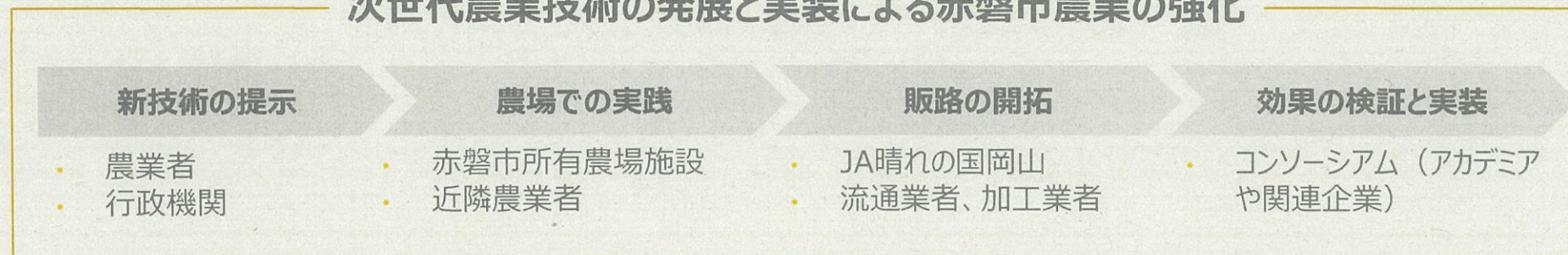
### 次世代農業の推進体制

- ▶ 次世代農業技術の普及にあたっては、生産者と企業、アカデミアを巻き込んだ農業研究プラットフォームを形成し、新たな技術の効果検証と販路開発を同時に行うことで、次世代農業の社会実装化を推進する。

#### 赤磐市未来型農業研究プラットフォーム



#### 次世代農業技術の発展と実装による赤磐市農業の強化





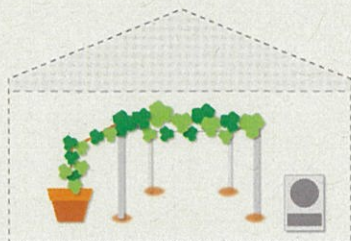
# 3-1. 就農等支援センターを中心とした次世代農業の推進

## 就農等支援センターの役割

- ▶ 次世代農業技術の普及促進のみならず、販路開拓や加工品開発をも手掛ける多角的な研修施設として、強い農業の確立実現に向けた取り組みを促進する。

### 多角的な研修施設として求められる役割

#### 新たな農業手法の検証



最新型の施設園芸を起点とした次世代農業技術の開発と営農ベースでの運用

#### 加工品の開発



農業研究所と連携した市場ニーズに基づく加工品や新販路開拓に向けた商品の開発

#### 次世代農業の実装



企業と連携した研修体制に基づく新たな農業手法・形態の普及と経営支援

### 多様な就農形態の形成

農福連携の促進による障害者の自立支援やリタイア世代の就農支援

複合的な設備の拡充により手法開発から社会実装までの一連の支援を可能にする

〈就農等支援センターにおける試験農場設備（案）〉

試験用ハウス

加工試験施設

研修・集客施設

露地作試験用圃場

商用スペース等

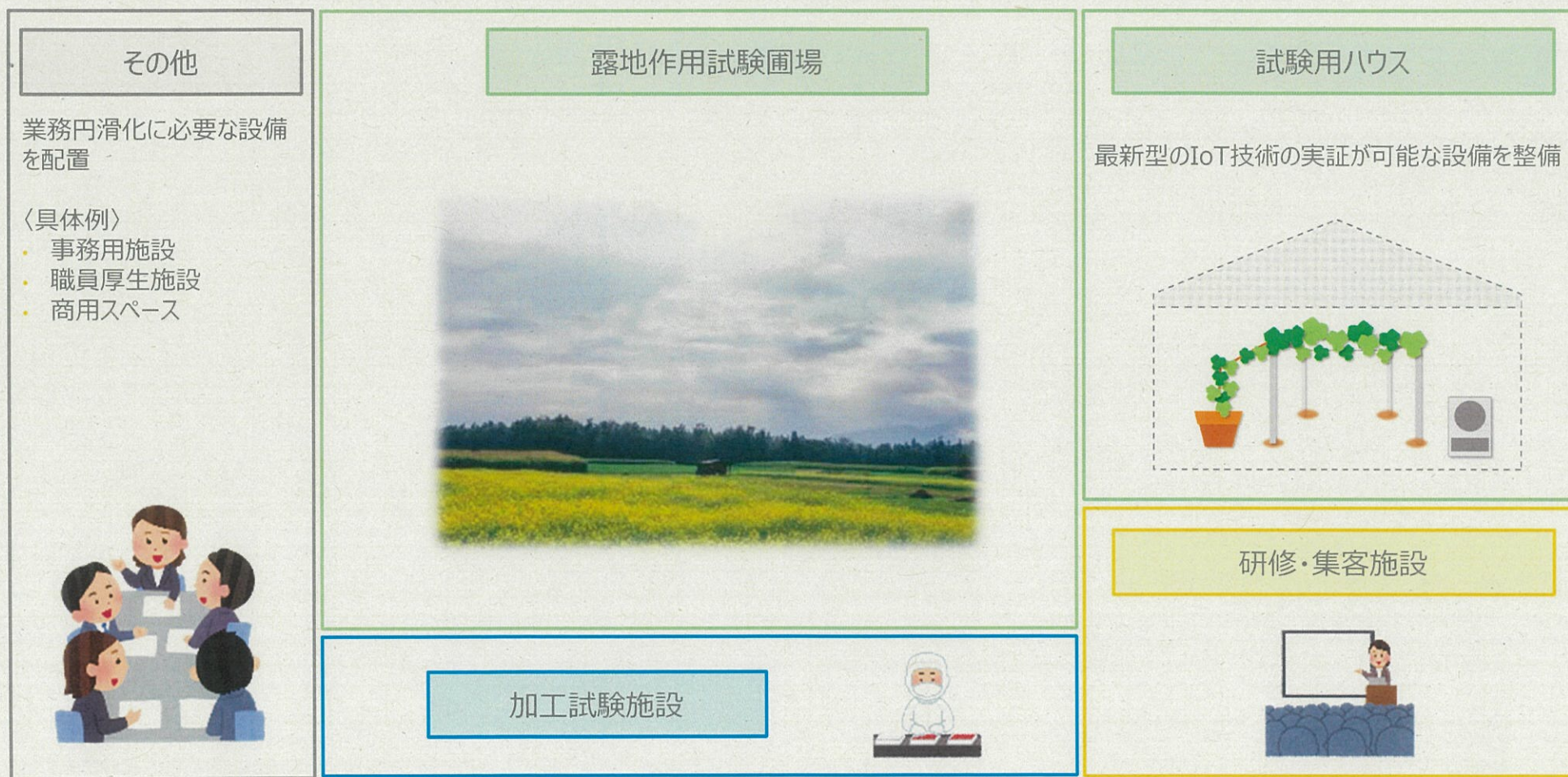


# 3-1. 就農等支援センターを中心とした次世代農業の推進

## 就農等支援センターの概観

- ▶ 試験圃場を中心に、最新IoT技術の実証施設や加工品開発スペース、研修スペースを整備することで次世代農業技術の社会実装を促進する。

〈就農等支援センター（案）〉



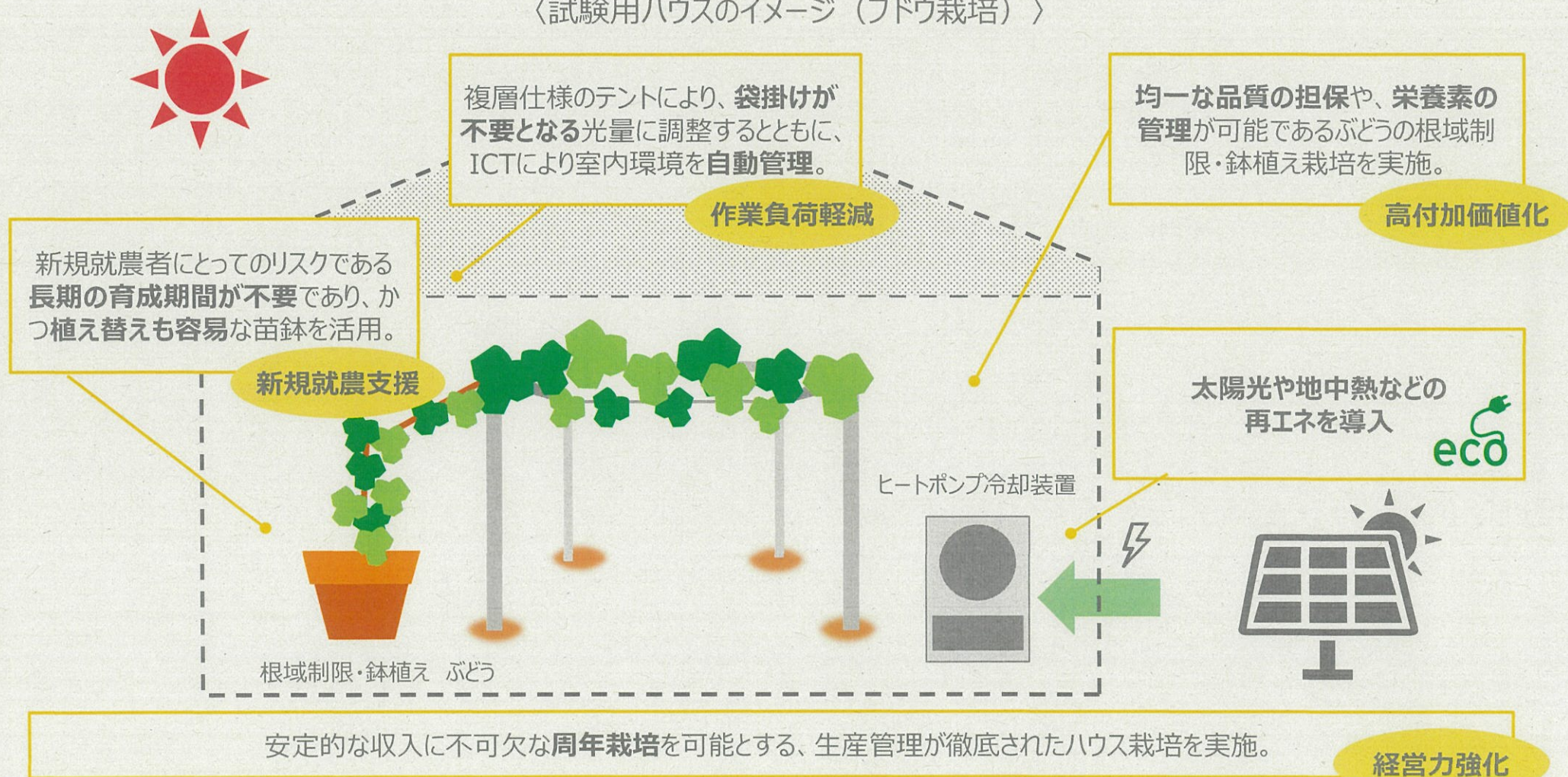


# 3-1. 就農等支援センターを中心とした次世代農業の推進

## 試験用ハウスにおいて検証する栽培技術イメージ（ぶどうの周年栽培）

- ▶ ハウス栽培における徹底的な生産管理によって可能となる、農産物の高付加価値化や作業負担の軽減を促進する栽培技術の試験運用を実施することで、農業者の経営力強化や新規就農者の拡充を図る。

〈試験用ハウスのイメージ（ブドウ栽培）〉





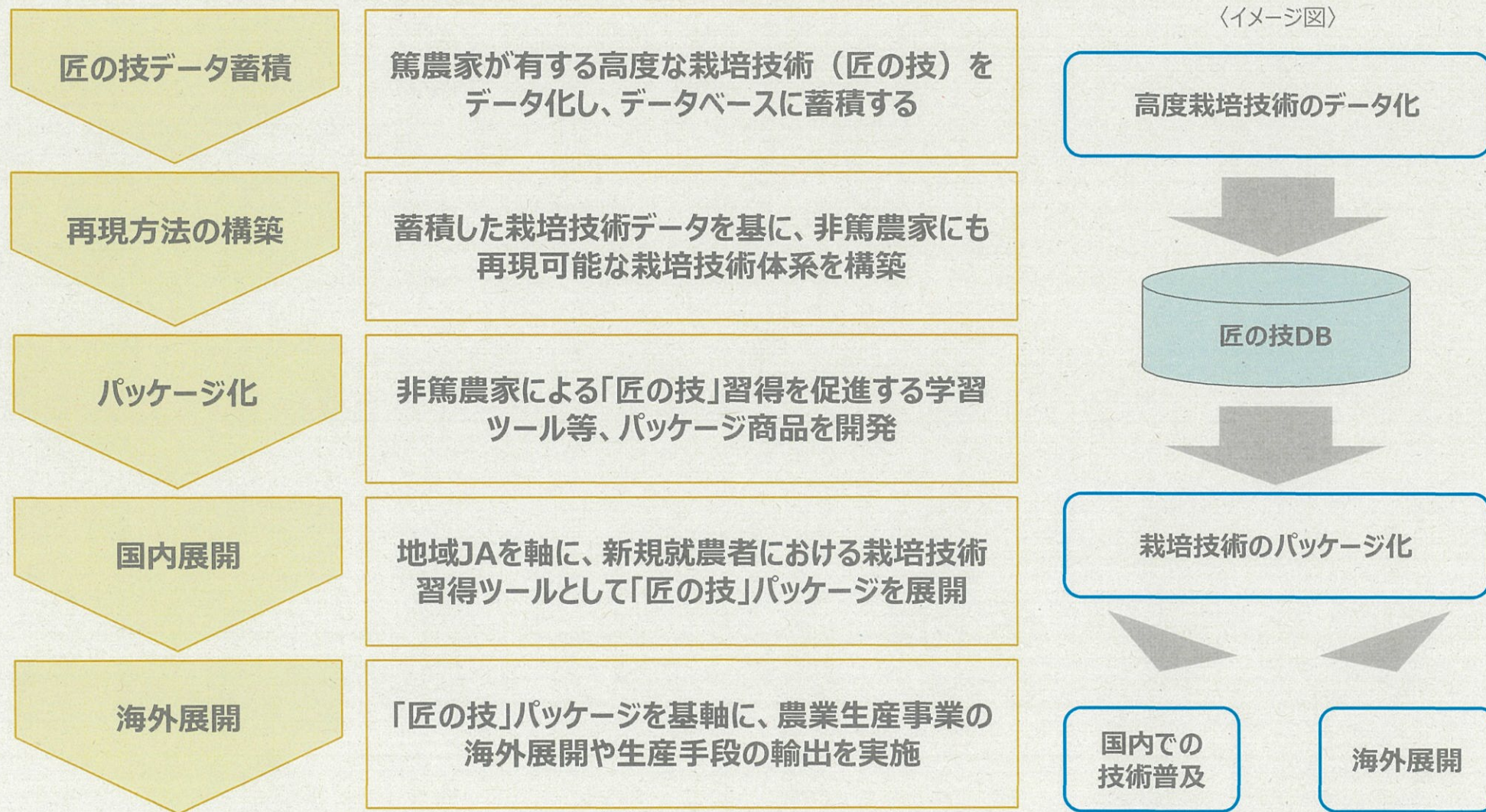
## 3-2. 匠の技の継承に向けた取り組み



## 3-2. 匠の技の継承に向けた取り組み

### 匠の技の継承

- ▶ 「匠の技」のパッケージ化し体系的に可視化することで、高度技術の継承を促進する。また、パッケージ化された栽培技術の海外展開を図ることで、国内農業の更なる発展に必要な資金獲得も目指す。





## 3-2. 匠の技の継承に向けた取り組み

### 匠の技の継承

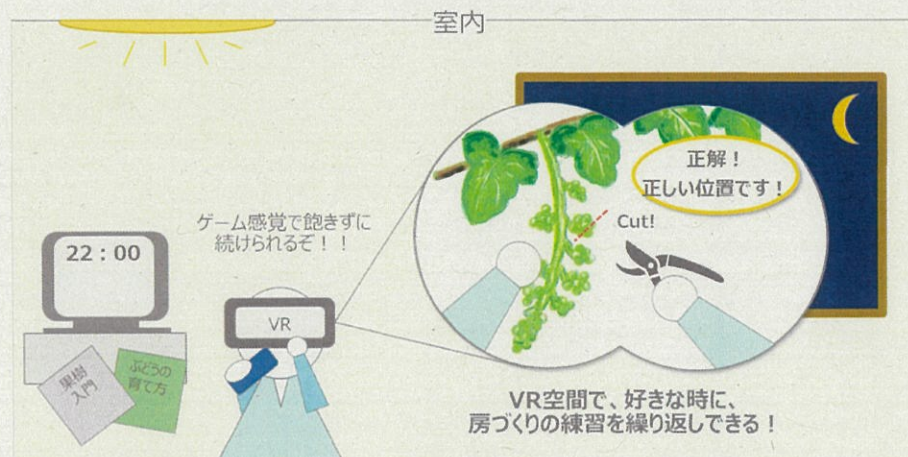
- ▶ 農業技術の指導は、感覚的であったり指導可能期間に限りがあるという課題を抱えている中、AR・VR機器を活用した学習ツールや技術指導サポートツールを開発することで、習得が難しい匠の技の次世代継承を促進する。

#### VRを用いた匠の技学習ツール

##### 場所と時間を選ばず匠の技を体感しながら学習

- ◆ **時間的な制約からの解放**
  - ・ 房づくりなど、指導可能な期間が限られていた技術を、年中どこでも学ぶことが可能に。
- ◆ **高度技術の高い学習効果**
  - ・ 感覚的な要素の強い匠の技を、VRシミュレーションによって繰り返し体感できるため、習熟度が向上。

##### 〈房づくり技法の学習ツール（イメージ）〉

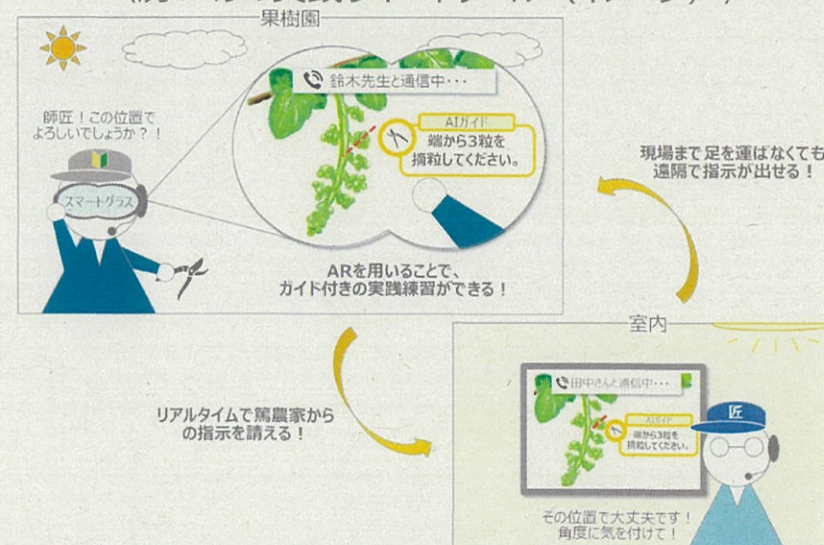


#### ARを用いた匠の技実践サポートツール

##### 篤農家の負担を最小限に抑えた実践指導

- ◆ **物理的な制約からの解放**
  - ・ スマートグラスを通した遠隔指導により、篤農家は現場に赴くことなく技術指導を行うことが可能。
- ◆ **シミュレーションの実践練習**
  - ・ ARのサポートを受けながら、シミュレーションで学んだ匠の技を実践練習することが可能。

##### 〈房づくりの実践サポートツール（イメージ）〉





### 3-3. 高付加価値化に向けた取り組み



### 3-3. 高付加価値化に向けた取り組み 地域における品質の維持と平準化

- ▶ ICT技術によって栽培実態をデータ化することで、従来、継承が困難であった栽培技術の平準化が可能となり、地域全体における品質の維持・向上や新規就農者の参入促進を図る。

赤磐市農業  
の現状

経営体によって栽培技術の水準が異なるため品質にばらつきがあり、  
技術継承の難しさから新規就農者の参入も容易ではない

〈課題〉 品質の不揃い、収益の不安定さ、篤農家技術の継承不足、労働生産性の低さ・・・

#### ICTを活用した栽培技術のデータ化と体系化

〈収集データ例〉

各生産者の栽培環境、作業情報・品質等

天候など外部要因の影響

地域、品種ごとの品質傾向

収集データから品質平準化  
に向けた分析を実施

〈品質平準化に資する取り組み例〉

経験的ノウハウのマニュアル化・見える化

天候に応じた管理手法の構築

品質を左右する技術的な要因の特定

地域、品種における品質の傾向把握

赤磐市としての品質基準の策定と生産システムの展開

赤磐市農業  
の将来像

新規就農者であっても平準的な栽培レベルに到達しやすい、  
地域全体的に高いレベルの品質を維持する体制が整っている



### 3-3. 高付加価値化に向けた取り組み 周年収益に向けた新たな市場への展開

- ▶ 栽培技術の高度化と関連企業との連携強化によって、加工品や健康・ヘルスケアといった新たな市場に向けたマーケットイン型の商品開発が可能となり、収益の向上及び周年化を促進する。

〈次世代農業の在り方〉

#### 販路開拓パートナーとの連携と、新たな需要へ対応可能な供給体制の構築

##### ICT導入ハウスによる栽培管理

栄養や糖度、成熟度、  
収穫タイミングの管理や周年栽培が可能に。



##### 関連企業との提携

販路開拓、市場ニーズ把握、  
マーケットイン型の商品開発が容易に。

農産物の高付加価値化と新たな市場への進出

#### 市場ニーズを捉えた加工用農産物の栽培により周年収益の獲得を実現

##### 加工品市場への展開

##### 通年的な需要を見込める市場への進出

〈用途例〉

- ◆ ジュース原料
- ◆ アイスcream原料

〈商品例〉

- ◆ 赤磐市特産の果物ジュース
- ◆ 果実の色づきの良さを活かした加工用ジュレ



##### 健康・ヘルスケア市場への展開

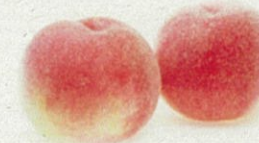
##### 農産物の特性を活かした発展市場への進出

〈用途例〉

- ◆ 美味しい医療食品の原料
- ◆ 機能性食品の原料

〈商品例〉

- ◆ 白桃の滑らかさを活かした誤飲防止デザート
- ◆ ぶどうの栄養価の高さを活かした栄養補助デザート





### 3-3. 高付加価値化に向けた取り組み 流通の最適化と消費者アクセスの向上

- ▶ ICTを導入し生産及び保管技術を高度化することで、流通を最適化するとともに、赤磐市産農産物の品質の高さを示すデータに消費者が直接アクセスできるモデルの構築を目指す。

#### 生産・選果システムの高度化

##### 〈育成環境の管理〉



- ・ 品質基準を設定
- ・ 生育環境管理によって、農産物の**品質をコントロール**
- ・ 出荷する**農産物の規格を統一**

##### 〈選果システム〉



- ・ 糖度に加え、**栄養素を分析**する機能を装備
- ・ 市場ニーズに合わせ、求められる**要素別に熟度を判断**



#### 保管・情報技術の高度化

##### 〈保管システム〉



- ・ 果実の成熟度に応じた**追熟を行える冷蔵システム**
- ・ 追熟によって増加するポリフェノール等の**栄養素も管理することが可能**

##### 〈消費者と繋がるシステム〉



- ・ 農産物の品質データ等を**生産現場から小売店へ展開**
- ・ 売り場に設置された端末から**消費者が直接情報にアクセス**できる



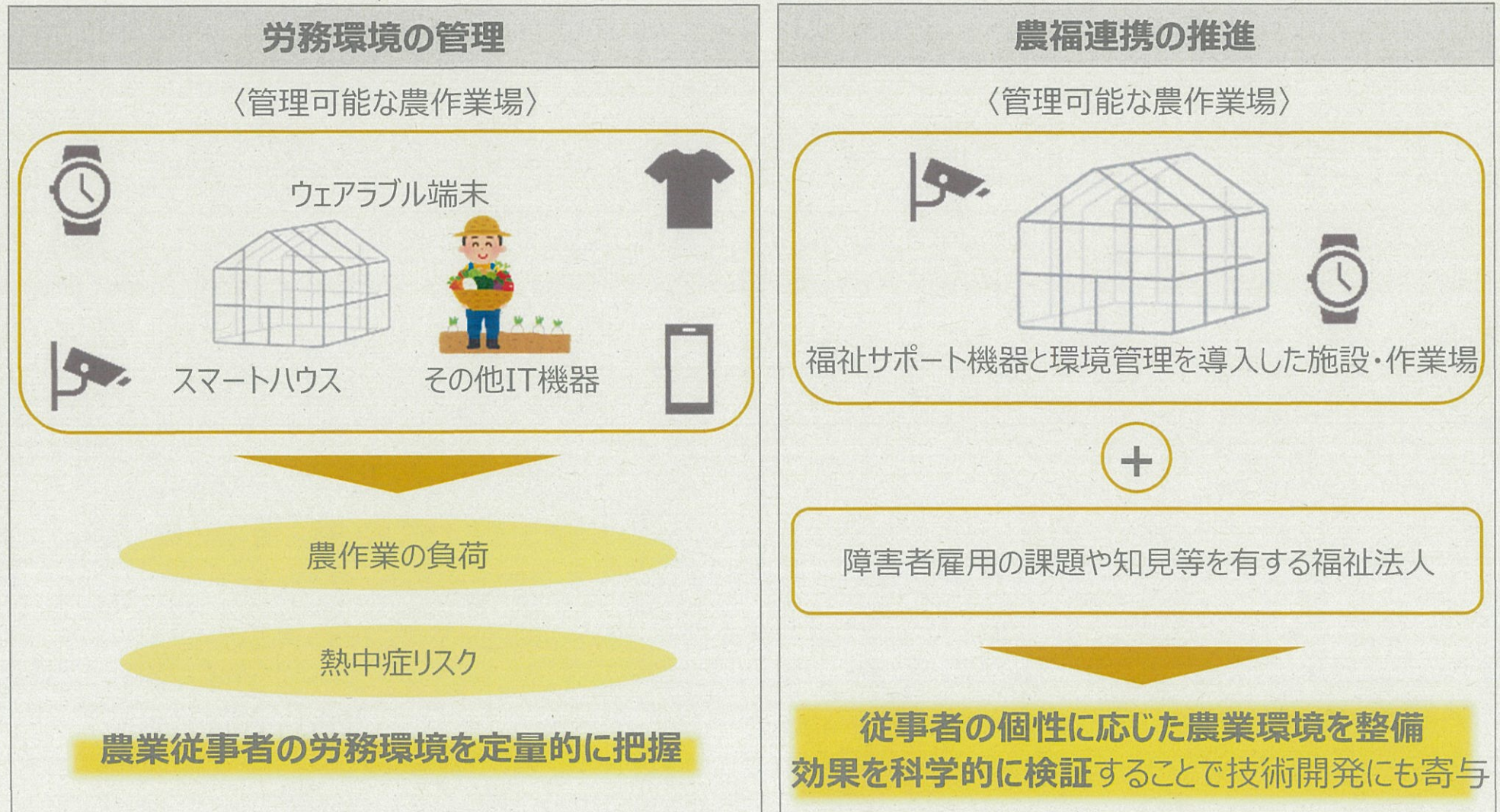
### 3-4. 就農環境の多様化に向けた取り組み



### 3-4. 就農環境の多様化に向けた取り組み

#### 農業労務環境の管理と農福連携の推進

- ▶ 農作業にかかる肉体的な負荷や熱中症リスクを可視化することで、農業従事者の労務状況管理と環境改善を実現する。労務状況の管理は、障害者や高齢者など、多様な人々が従事する農業環境の整備にも繋がる。





# 補足資料

## 用語の定義

### 〈農業者〉

- 基幹的農業従事者：就農者のうち、普段の主な状態が「主に自営農業者」である者。
- 農家：経営耕地面積10a以上の農業を営む世帯または農産物販売金額が年間15万円以上ある世帯。
- 販売農家：経営耕地面積30a以上または農産物販売金額が年間50万円以上の農家。
- 自給的農家：経営耕地面積30a未満かつ農産物販売金額年間50万円未満の農家。
- 農業後継者：15歳以上の者で、次の代でその家の農業経営を継承する者（予定者を含む）。
- 新規就農者：次のいずれかに該当するもの。
  - 新規自営農業就農者：家族経営体の世帯員で、調査期日前1年間の生活の主な状態が、学生又は他からの雇用から「自営農業への従事が主」になった者。
  - 新規雇用就農者：調査期日前1年間に新たに法人等に常雇い（年間7か月以上）として雇用され、農業に従事した者。
  - 新規参入者：調査期日前1年間に土地や資金を独自に調達し、新たに農業経営を開始した経営の責任者及び共同経営者。
- 雇用者：農業経営のために雇った「常雇い」及び「臨時雇い」（手間替え・ゆい（労働交換）、手伝い（金品の授受を伴わない無償の受け入れ労働）を含む。）の合計をいう。
- 常雇い：主として農業経営のために雇った人で、雇用契約（口頭の契約でもかまわない。）に際し、あらかじめ7か月以上の期間を定めて雇った人のことをいう。
- 臨時雇い：日雇、季節雇いなど農業経営のために臨時雇いした人で、手間替え・ゆい（労働交換）、手伝い（金品の授受を伴わない無償の受け入れ労働）を含む。なお、農作業を委託した場合の労働は含まない。また、主に農業経営以外の仕事のために雇っている人が農繁期などに農業経営のための農作業に従事した場合や、7か月以上の契約で雇った人がそれ未満で辞めた場合を含む。

### 〈農業地域類型区分〉

- 都市的地域：可住地に占める人口集中地区面積が5%以上、住宅率が60%以上であり、人口密度500人以上の市町村。
- 平地農業地域：耕地率20%以上かつ林野率50%未満の地域。
- 中山間農業地域：耕地率20%未満で、「都市的地域」「山間農業地域」以外の市町村。
- 山間農業地域：80%以上かつ耕地率10%未満の市町村。

### 〈土地の表記〉

- 耕作放棄地：以前耕作していた土地で、過去1年以上作物を作付けせず、この数年の間に再び作付けする 考えのない土地（農家の自己申告によるもので、場所が特定されていない）。
- 荒廃農地：現に耕作に供されておらず、耕作の放棄により荒廃し、通常の農作業では作物の栽培が客観的に不可能となっている農地。
- 1号遊休地：現に耕作の目的に供されておらず、かつ、引き続き耕作の目的に供されないと見込まれる農地（再生利用が可能な荒廃農地）。